

# 地水火風

恒一 牧野

中米ハイチで強い地震が発生し、首都ポルトープランスが壊滅的な打撃を受けて多数の死傷者が出ている。政府機能が麻痺して、救助も遺体の収容もままならず、食料など援助物資の配給も滞っている。町は文字どおり無政府状態になっているようだ。首都直下型地震の危機にさらされている日本人として、とても他人事とは思えない。

「2010年ハイチ地震」ハイチ地震は、1月12日(火) 16時53分(日本時間13日午前6時53分)に、首都ポルトープランスの南西約15キロ、深さ約10キロの地点を震源として発生した。地震のマグニチュード(Mw)は7.0と、あまり大きな地震ではないが、震源が浅かったため揺れは大きく、建物構造とも相まって、首都の建物は軒並み倒壊してしまった。大統領府も全壊して、一時、大統領の生死さえ危ぶまれたほどだ。

ポルトープランス近辺の揺れの強さは、改正メルクリ震度階で7〜10とされている。日本の気象庁震度階に無理矢理対応させると、大体5強〜7に相当するようだ。日本で起きてても阪神・淡路大震災並みの大被害が出るほどの揺れだったらしい。

## ハイチ地震と国際救助活動

死者は7万人以上とも20万人以上とも言われ、住居を失った人100万人、ポルトープランスの建物の4分の3は倒壊又は再建の必要があるほど損壊したなども報道されているが、いまだにハッキリしない。政府機能

日本と同じようなことが起こるとは思いたくないが、国の中枢機関や多数の人口が集中する地域が壊滅的に破壊され、政府機能が不全に陥るといふことになるか、ということを見せられてもろっているように恐ろしい。

「各国の救助隊は迅速に助や救援の基礎となる情報を集めたり、集計したりすることができないでいるようだ。そんな中、瓦礫の下になつて収容できない遺体が腐敗して凄まじい臭気を発しているという情報や、収容した遺体を身元確認も行わずに大きな穴を掘って埋めている映像、商店の商品や援助物資を銃を片手に取り合う映像などが断片的に報道されている。

スランドなどが、当然のよう救助隊を派遣している。目を引くのはアジアからの救助・救援隊の規模と立ち上がりの早さだ。中国は、地震直後に第一陣として60人からなる救助専門チームを派遣し、33時間後の14日未明

「日本は出遅れ」これに対し我が国は、救助チームを派遣せず、国際緊急援助隊派遣法に基づき25人の医療チームを派遣したのが16日、ハ

「国際救助活動は国の総合危機対応能力の競争の場」世界各国の救助チームが駆けつける大災害は毎年のようにあるが、今回のように実際に多数の人

「遠くまで救助には間に合いないから医療チームを派遣すればよい」とか、「治安が悪くて隊員の安全に責任が持てそうもないから、まずは調査チームを派遣すべきだ」という発想では、このような事態における

「国際救助活動に関する思想の確立が必要」国際救助活動は国家の総合能力が必要な場だ。費用もかかる。東アジア諸国がこの激戦区に参入するようになった一方

「命を守る政治」が鳩山首相の基本理念だと言ふなら、国際救助活動についてもキチンとした考え方を確立して必要な体制を準備し、発災時には迅速的確な判断をしてほしいものだと思う。

だが、日本が世界一地震リスクの高い国であることは、今や世界の常識だ。その国が国際救助活動の舞台から降りるといふわけにはいかないだろう。だとすれば、キチンと準備をしておき、いざという時には即座に対応するしかない。災害が起つてから、あれこれ考えたり、議論をしたり、諸外国の様子を見たりしているようでは、迅速な派遣はおぼつかない。救助関係省庁だけでできることではなく、国のトツプが乗り出す案件だ。

スマトラ沖地震でも、四大地震でも、昨年のスマトラ地震でも、日本は救助チームを派遣して、大きな成果を上げてきた。四川大地震に派遣された日本チームが、遺体に黙祷を捧げる様は内外で大きく報道され、中国人の対日感情の改善に寄与したことは記憶に新しい。

「命を守る政治」が鳩山首相の基本理念だと言ふなら、国際救助活動についてもキチンとした考え方を確立して必要な体制を準備し、発災時には迅速的確な判断をしてほしいものだと思う。

「国際救助活動に関する思想の確立が必要」国際救助活動は国家の総合能力が必要な場だ。費用もかかる。東アジア諸国がこの激戦区に参入するようになった一方